

美術専攻 環境デザイン研究領域

トウ トウ

藤 藤



AETHER

映像、布、アクリル

AETHER

本研究は、空間を単なる機能的な「容器」としてではなく、人と関係を持ち、反応し、共存する生命的な存在として捉え直すことを目指す。

私たちは日常の中で、よく安心する空間や落ち着く場所に出会うことがある。本研究は、そのような感覚的な体験から出発し、「空間そのものが、私たちに応答しているのではないか？」という問いを立てた。

この問いをもとに、私はAETHERという世界観を構築した。AETHERは、半透明で柔らかな「空間生物」によって成立する概念的な世界である。これらの存在は、特別な物語を持つのではなく、人々の日常空間の中に静かに存在している。都市の隙間、公園、駅など、人が休むところに寄り添うように現れる。

AETHERの世界では、空間の生命状態を三つに分けて考えている。沈黙：人がいないとき、空間は眠るように静まっている。覚醒：人が近づき、立ち止まることで、空間がゆっくりと目覚める。インターアクション：人が触れ、滞在することで、空間が反応する。これらは「沈黙—覚醒—インターアクション—沈黙」へと循環する生命のリズムである。

この生命性を可視化するために、本研究では光・色・素材・焦点距離を表現のメディアとして使っている。光は呼吸のようなリズムを示し、色は環境や天候から空間の感情を表す。半透明で柔らかな素材は生物的な存在感を強め、焦点やぼかしの変化は、人と空間の距離感を導き出す。これらはすべて、私が日常や自然の中で感じてきた「生命の兆し」に基づいている。

わたしは空間生物の模型を継続的に制作し、展示空間全体として生物の多様性を生み出すことを重視した。また、AETHERの物語映像によってAETHERの世界観を提示し、最終的に公共空間を想定した装置模型を制作し、人との関係性を現実世界で探索している。

本作品は、空間に明確な機能を与えるものではない。空間を生命として捉えることで、人と空間の関係を見直すための、新たな提案を生まれた。AETHERは空想の世界ではなく、日常の中にある小さいな生命に気づくための、一つの空間認識の方法である。